

## 令和5年度国際ネットワーク部会 開催報告

本部会は、文化芸術創造都市政策の推進にあたり、特に東アジア文化都市やユネスコ創造都市ネットワークといった国際的なネットワークの活用又は活用を目指すことにより、国際的にも先進的な文化芸術創造都市政策の研究や、発信力強化を図ろうとする都市における相互の連携や交流、情報交換を行うことで、国際都市を目指した創造都市政策のさらなる実現を目的としている。

### 【全体概要】

- 令和5年度の部会は、東アジア文化都市を開催中の静岡県と連携し、担当者ミーティングでは、2025年の大阪・関西万博を見据え、国際社会への発信力が強い「食文化」をテーマとして取り上げ、部会員が実施する「食文化」に関する取組の現状や課題について情報共有を行うとともに、都市ブランドの向上やシビックプライドの醸成に繋げる方策等について、意見交換を行った。
- また、ミーティング終了後には、エクスカージョンとして東アジア文化都市 地域連携プログラムである、大道芸ワールドカップ in 静岡の視察を行った。

### 【担当者ミーティング】

開催日時	令和5(2023)年11月2日(木)13:30~15:30
開催方法	静岡県(静岡県庁会議室)及びオンライン(ハイブリッド開催)
主催	京都市
共催	創造都市ネットワーク日本(CCNJ)、静岡県、文化庁
参加人数	38名(現地14名、オンライン24名)
参加自治体・団体数	自治体:17、団体:1
プログラム	<ul style="list-style-type: none"><li>□開会挨拶<ul style="list-style-type: none"><li>・覚前元英氏(京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課政策連携推進担当課長)</li><li>・小澤和久氏(静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課長)</li><li>・児玉大輔氏(文化庁参事官(生活文化創造担当))</li></ul></li><li>□出席者紹介</li><li>□「食文化」に関する事例紹介<ul style="list-style-type: none"><li>・大川尋子氏(鶴岡市企画部食文化創造都市推進課主任)</li><li>・菅原将太氏(丹波篠山市ブランド戦略課主査)</li><li>・足立紗和子氏(臼杵市産業観光課食文化創造都市推進室食文化創造都市推進室主任)</li></ul></li><li>□意見交換</li><li>□総括<ul style="list-style-type: none"><li>・佐々木雅幸氏(CCNJ顧問)</li></ul></li><li>□「東アジア文化都市2023」の取組紹介<ul style="list-style-type: none"><li>・渥美智之氏(静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課係員)</li></ul></li></ul>

	<input type="checkbox"/> その他連絡事項 <input type="checkbox"/> 閉会
--	---

## 【担当者ミーティング概要】

### 1. 「食文化」に関する事例紹介

#### (1) 事例紹介／大川尋子氏（鶴岡市企画部食文化創造都市推進課主任）

- ・鶴岡市は、2014年にユネスコ食文化創造都市に認定され、認定を機に、食文化を地域の活性化につなげるため、主に以下の3点に注力している。
- ・産業振興：料理人の育成や、料理人と生産者の連携を促進することで、地域の食材を活かした料理の魅力を高め、観光客の誘致や、外食産業の振興につなげている。
- ・交流人口の拡大：鶴岡フードガイドの育成や、海外との交流事業などを通じて、鶴岡の食文化の魅力を国内外に発信し、交流人口の拡大を図っている。
- ・地域作り：郷土料理のレシピ集の配布や、学校給食での地域食材の活用などを通じて、食文化の継承と、郷土愛の醸成に取り組んでいる。

#### (2) 事例紹介／菅原将太氏（丹波篠山市ブランド戦略課主査）

- ・丹波篠山市は、2015年にユネスコ創造都市ネットワークのクラフト&フォークアート分野に認定された。
- ・丹波篠山市の特産品である黒豆は、300年以上前から栽培され、市内の農地の約3割を占めており、日本農業遺産にも認定されている。また、ぼたん鍋は猪肉と地元野菜を味噌で炊いた鍋料理であり、文化庁の100年フードにも認定されている。これらの食材・料理を地元の器で提供する取り組みも行っている。
- ・丹波篠山市では、「本物、ここにしかない」を追求する価値観を大切にしている。この価値観を、食文化の分野だけでなく、景観や建築などの他の分野にも広げていくことをミッションとしている。

#### (3) 事例紹介／足立紗和子氏（臼杵市産業観光課食文化創造都市推進室食文化創造都市推進室主任）

- ・臼杵市は、2021年にユネスコ創造都市ネットワークの食文化分野に加盟した。市のスローガンである「人も環境も健康のもとで食を楽しみ、次世代に繋ぐまち」を達成するため、以下の3つのプロジェクトを実施している。
- ・シビックプライド醸成プロジェクト：郷土料理教室、食楽アンバサダー養成講座、食映画祭などを実施し、市民に食文化の魅力を伝える。
- ・食材等利用促進プロジェクト：食文化創造ストーリーブックを作成・発行し、市民に地元食材の魅力を伝える。
- ・情報発信プロジェクト：ユネスコ総会やスローフード祭典など、国内外の食イベントに参加して、臼杵市の食文化をPRする。
- ・臼杵市では、食文化についての市民の理解が十分ではないという課題があることから、今後は、民間主導の取り組みを促進し、市民一人ひとりが臼杵市の食文化を愛し、誇りに思えるようなまちづくりを目指していく。

## 2. 意見交換

- ・参加自治体・団体から、意見や質問があり、食文化創造都市のブランド化に向けて、地域の食文化を継承・発信していくための取り組みが重要であること、そのためには、行政と民間の連携が不可欠であり、両方で役割分担を明確にして取り組むことが重要であることが認識された。
- ・若い世代への食文化の普及・啓発は、特に重要な課題であり、そのためには、親子や学校などを通じて、食文化に触れる機会を増やすことが重要であるとの発言があった。
- ・食文化創造都市の取り組みは、地域の活性化につながる大きな可能性を秘めていることから、今後も、地域の特色ある食文化を守り、発展させていくための取り組みを継続していくことが重要であることが確認された。

## 3. 総括／佐々木雅幸氏 (CCNJ 顧問)

- ・令和 5 年 10 月 31 日付けで、岡山市が日本で初めてユネスコ創造都市文学分野に認定された。隣国である韓国や中国に遅れをとっていた日本にとって、大きな成果である。
- ・食文化創造都市の取り組みは、地域の食材や調味料、料理人の感性・スキルを組み合わせることで、その土地ならではの食文化を創出することができる。また、大量生産やグローバル化による食文化の喪失を防ぐ役割も果たす。
- ・東アジア文化都市とユネスコ創造都市の取り組みを両立させることで、東アジア地域の文化交流や相互理解を促進することができる。また、SDGs の推進にも貢献できる。
- ・文化の定量的な効果を測定することは、文化事業の経済効果や社会効果を明らかにし、さらなる発展につなげるために重要である。

## 4. 「東アジア文化都市 2023」の取組紹介

### ／渥美智之氏（静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課係員）

- ・静岡県は 2023 年東アジア文化都市に選ばれ、4 月から 12 月までの間、文化交流や相互理解の促進を目的とした事業を展開している。静岡県の強みである自然環境、食文化、スポーツ、産業文化などを活かした事業を展開しており、これまでに大道芸ワールドカップ、国際オペラコンクール、伊豆文学祭など、さまざまなイベントを開催している。また、コロナ禍で文化芸術関係者や観光客が減少する中、東アジア文化都市を契機に、文化芸術の振興やインバウンドの回復を目指している。
- ・9 月から 11 月には、420 件の文化イベントが集中的に開催される予定であり、12 月には、浜松市でフィナーレの式典とシンポジウムを開催し、東アジア文化都市の取り組みを総括する予定である。
- ・東アジア文化都市の取り組みを通じて、地域の文化的資源を活かした新たな観光振興のモデルを構築することで、文化芸術の振興や国際交流の促進にも貢献したい。

